庄内町立図書館だより

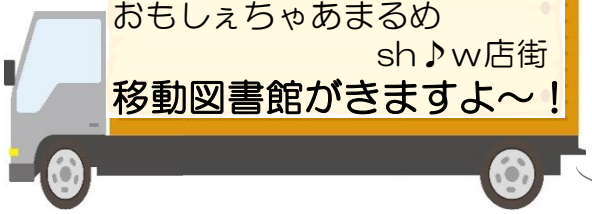
よめっちゃ

（本をたくさん
「読んでね」との願いを込めて）

2017.8.31(No.26)

つちだよしはる絵本原画展開催しました！

今後も図書館・水彩画記念館はみなさまの生涯学習をサポートできるよう活動いたします！



祭りはまだまだ終わらない！
おもしぇちゃあまるめ
sh♪w店街
移動図書館がきますよ～！

9/24（日）
10:00～
旧みつば
薬局前

図書館カレンダー　★開館時間

■ ⇒休館日

平日　午前 9:00～午後 7:00
土日　午前 9:00～午後 5:00

9月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

おはなしらんど ★ たのしいおはなし会

☆日時：9/20（水）・10 時～
☆会場：庄内町立図書館１階ホール
お申し込み不要です
お気軽にご参加ください♪

庄内町 内藤秀因水彩画記念館

Shonai Town Shuin Naito Museum of Watercolor

記念館のロゴができました！

このたび、記念館をイメージしたロゴが誕生しました！

モダンなフォントと、図案化された館のシルエットが印象的なこちらのロゴ、今後、当コーナーの見出し、ポスターやパンフレットなど、様々な場面に登場します！ ご覧いただいたみなさまから、より当館に親しみを感じていただけましたら嬉しいです。

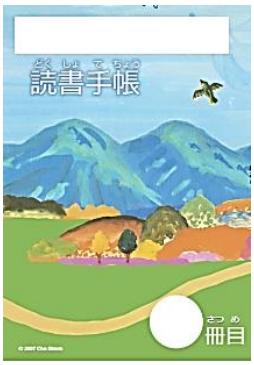
展示のごあんない

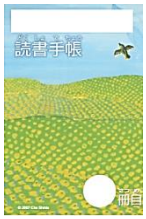
2017 年 9 月 2 日(土)→10 月 8 日(日)

「小林 功展　―水彩画の軌跡―」

「第 102 回収蔵品展　Ⅰ期
たてものを巡る小さな旅 ―日本編―」

読書手帳つくりませんか？？





☞台紙は３種類

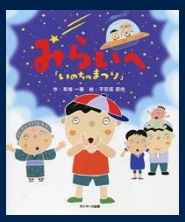
絵本作家の長新太さんデザインも！

読書の記録を
・自分だけの
・世界に１つ
冊子にしましょう！

図書館の検索用のパソコンから、手帳にはる読書シールを印刷。
くわしくは職員まで☞☞☞
お声がけお待ちしております☺

お問い合わせ　図書館・内藤秀因水彩画記念館
４３－３０３９
分館　５６－３３０８
図書館 HP→http://www.town.shonai.lg.jp/library/

『みらいへ　いのちのまつりシリーズ』 草場一壽／著
（サンマーク出版）



「いのちのまつり」シリーズは、2004 年「いのちのまつり　ヌチヌグスージ」の初刊以　来、現在まで 6 冊が刊行され、「つながっている！」、「おかげさまで」、「かがやいてる子」など、過去から未来への命のつながりやその命を精一杯生きることの大切さがじんわり伝わってくる絵本です。子供だけでなく親子が一緒に読むことで、人として大切なものを共感できそうな絵本として私の好きなシリーズ絵本です。

今回おすすめの「みらいへ」の絵本は、おじいちゃんの死を通して命のつながりと未来につなぐ責任や今を一生懸命楽しく生きることの大切さを改めて強く感じる絵本です。いつも絵本のどこかにある驚きのシカケもまた楽しみの1つです。

『今日もいい塩梅（あんばい）』 内館牧子／著 （文藝春秋）

「お祭り」と聞いて先ず思い浮かぶのは、人気脚本家の内館氏が、食べ物が呼び起こす忘れ得ぬ情景、心に残る人々、を愛惜の情を込めて綴った、珠玉のエッセイ集に掲載されている「茄子」の編のこと。

大阪府岸和田市の「だんじり祭り」で、ビル3階に相当する高さ、しかも豪快に突っ走る山車の屋根で、まるで鳳凰のように飛んでいた「お祭り野郎」を内館氏が取材。その若い男の言葉「怖いなんて思わん。祭りの日は街中に神さまが降りてきとるってわかるんや。何かほんまに感じるんや。日本中のどこの祭りでもそうやと思う。神さまと一体になるというか、そのときの熱さを覚えたら、もう一生、祭りからは離れられん」の強烈さ。そして内館氏の結びの言葉「日本全国の祭りの宵には、姿を変えた神さまが街中にあふれているのだ、と。どんなに小さな村祭りであっても、神さまはニコニコしながら見ているのだ、と。世の中というところ、悪くない」は、素直に胸の中に溶け込んで行くようです。全編ご覧いただければ、「神さまはニコニコしながら…」の意味もお判りになれます。

『14 ひきのあきまつり』 いわむらかずお／著 （童心社）

いわむらかずおさんの、「14　ひきシリーズ」の1作です。娘が小さい頃、ねずみの兄弟をひとりひとり見つけながら読んだのをなつかしく思い出しながら再読しました。

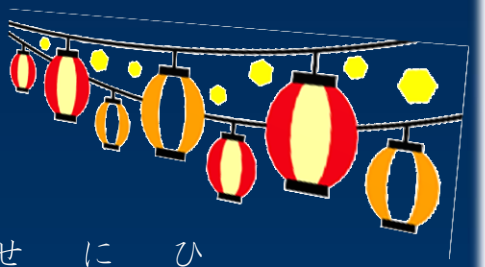
ねずみの子どもたちとおばあちゃんがかくれんぼをしていると、あれ「とっくん」がいない！森の奥まで捜しに入ったねずみたちは、そこで「きのこまつり」に出合います。「せいや、せいや、わっしょい、わっしょい」と威勢のいい掛け声とともにくりたけやどんぐり、かえるたちがきのこの神輿をかつぎます。きのこのお神輿の場面は、迫力満点です。そこに突然山風が吹いて、お祭りは一瞬で吹き飛んで、そこはいつもの秋の森。

「14ひきシリーズ」のなかでもちょっと異色の幻想的な作品です。表紙から全頁秋色満載。ひと足早く 14 ひきと一緒に秋の森に出掛けてみませんか。

『和太鼓のひみつ（楽しい調べ学習シリーズ）』
小野美枝子／著 （PHP 研究所）

日本の伝統的な楽器のひとつ、「和太鼓」。お祭りには欠かせないものの1つですよね。その音を聞くだけでソワソワして、「お祭りが始まった！！」と落ち着きがなくなる人もいるのではないでしょうか？
この本は、子ども向けの調べ学習の本なのですが、太鼓の歴史や種類、作り方から打ち方までわかりやすく紹介されています。

木の材質で音色が変わるのはもちろん、職人さんによって和太鼓の内側に模様が彫られ、その彫り方によって音色が変わるなんて、すごい技術ですよね。本物の和太鼓に触れる機会はなかなかないと思いますが、この本を読めば少しは和太鼓を身近に感じるのではないでしょうか？



夏がおわりの秋祭り

ひんやりして
にぎやかなだけじゃない
せつないようなお祭りの本
あつめました

「生物祭」伊藤　整／著
（『現代日本文學体系 51』（筑摩書房）ほか）

この小説はタイトルの通り、鳥獣虫魚の生命輝く、春のお話です。しかし庄内出身の私にとって、春はまだ肌寒く陰鬱としたイメージ…かえって冬に向けて生命力を蓄える今の時季にこそ、この「生物祭」を思い出しました。

春の強く香るスモモやしげる山菜、蛇、閑古鳥、さえずるウグイス、ヒトの身体、その生命力の波が、病に臥せる父親と主人公の青年に容赦なく押し寄せます。

自然というダイナミックな営みの中にある「父の死」という象徴的で普遍的なシーン、そこに否応なく対峙させられる青年の心境から「生」を描き出した名作といえるのではと思います。

この作品自体は短編でお手に取りやすいかと思います。この機会にぜひ、文学全集にも触れてみてください！